

米国の陶芸作家2人が、倉敷市玉島地区や県立大(総社市窪木)で滞在制作を行っている。地元作家との交流を通じて日本の陶芸文化に触発されなが

ら、独自の感性で作陶。21日から倉敷市玉島中央町のギャラリー「遊美工房」で作品展を開き、成果を披露する。  
(山本真慈)

# 日本の焼き物 「ルーツ深い」

## 米の陶芸作家2人 玉島、総社で滞在制作

2人は、テキサスA&M  
コーパスクリスティ大教授  
のルイス・カッツさん(63)  
と同大非常勤講師のゲル・  
ブッシュさん(60)。同大で  
ルイスさんに学び、同ギャ  
ラリーと縁があった陶芸家  
石村まなみさん(31)＝東京  
出身、米国在住＝が間をつ  
なぎ、県の「アーティスト  
滞在・交流事業」として滞  
在制作が実現。3人で1日  
に来岡した。

ろくろの上で回る粘土に  
静かに手を当てるルイスさ  
ん。素焼きした壺に絵付け  
をするゲルさん。同ギャラ  
リー近くの滞在型アトリエ  
・一鱗や電気窯を備えた県  
立大で制作を進める。その  
傍ら、備前焼の人間国宝(重  
要無形文化財保持者)伊勢  
崎淳さん＝備前市伊部＝や  
倉敷堀窯の武内真木さん＝  
倉敷市酒津＝らを訪問。技  
術について語り合ったり、  
窯や作品を見たりして知見  
を深めてきた。

□ざんえんのは「日本

## 作家と交流 独自の感性 あすから作品展



作品展に向け制作を進めるルイスさん(右)とゲルさん＝15日、県立大

の焼き物のルーツの深さ」。し、四角形と十二角形の茶  
武内さん宅で弥生時代の手  
びねりの壺に触れ「私の手  
がフィットし、昔の人とつ  
ながった感覚がした」とゲ  
ルさん。ルイスさんは「備  
前や酒津など、その地域の  
土を生かす試行錯誤の積み  
をつくり上げていた」とう  
なずく。  
「伊勢崎さんらの新しい  
可能性を追求する姿勢に感  
銘を受けた」というゲルさ  
んは、大きさの異なる平た  
い陶器を五つ積み重ねた作  
品などを披露する予定。大  
小の同形品を重ねるのはゲ  
ルさん得意の手法で「繰り  
返して穏やかさや平和を表  
している」とほほ笑む。  
作品展は28日まで。石村  
さんと作元朋子県立大講師  
の作品も並ぶ。入場無料。  
23日午後2時からトークイ  
ベントがある。問い合わせ  
は同ギャラリー(090-  
5378-6675)。